

5. 各種プロジェクト

小平国際学生宿舎及び国立国際交流会館では、多様な寮生をサポートするために多くの学生アシスタントが寮運営に携わっている。小平国際学生宿舎には執行部チームであるレジデント・アシスタント（RA）35名と共用ユニットの居住者間交流の橋渡しを担うコミュニティ・アシスタント（CA）19名、また国立国際交流会館のRA5名が常駐している。彼らを現場指導するスーパーバイザーとして、留学生・海外留学相談部門の教職員が各宿舎での現場指導にあたっている。

2017年2月の国際学生宿舎専門委員会で、留学生・海外留学相談部門の教員が業務として国際学生宿舎（小平、国立）の寮生や学生スタッフに対し現場指導を行う宿舎アドバイザー制度が審議、承認された。来年度以降、相談室業務の一環として国際学生寮における寮生交流の促進や、寮に住む外国人留学生の生活支援を効率的に行うための様々な業務改革が必要となるであろう。

1-1 小平国際学生宿舎の一年を振り返って

小平国際学生宿舎では、4大学（一橋大学、東京学芸大学、東京農工大学、電気通信大学）の関連部署、国際学生宿舎専門委員会構成員、宿舎アドバイザー、管理会社、各学生寮委員会など、複数の寮関連組織が入退寮管理業務及び寮生指導・教育・サポートを行うという複雑な構造になっており、組織を超えての情報交換や打合せを頻繁に行う必要がある。2016年度の主な合意事項としては、電気通信大学用に割り当てられていた居室約40室の一橋大学への再配分に伴い本学の交流学生用の単身室枠を拡張することとなった。これにより小平国際学生宿舎のキャパシティプラン(表1)の見直し検討が開始された。

表1 小平国際学生宿舎のキャパシティプラン（2016年度）

	小計	単身室	家族・夫婦室
一橋大学用	576	560	16
内訳			
（寮スタッフ用）	(61)	(59)	(2)
（交流学生用）	(95)	(95)	0
（正規留学生用）	(148)	(139)	(9)
（正規日本人学生用）	(241)	(241)	0
（緊急避難用等）	(31)	(30)	(1)
東京学芸大学用	83	72	11
電気通信大学用	89	80	9
東京農工大学用	37	31	6
合計	785	116	42

1-2 小平国際学生宿舎寮組織（ISDAK）の寮運営支援

2016年度のISDAKの執行部チームは、本学26名のRAに加え、東京学芸大学4名、東京農工大学2名、電気通信大学3名の計35名から構成された。各RAは基本業務として「1. フロアの寮生サポート」、「2. 班活動」、「3. ISDAK イベント」の領域をそれぞれ担っており、宿舎アドバイザーはRAによる寮運営における指導・助言を行う。

「1.フロアの寮生サポート」は、いわばRA活動の基幹となる業務であり、RAはそれぞれ自分の担当フロアを持ち、担当する寮生にきめ細かいサポートを提供している。2016年度の小平国際学生宿舎におけるISDAKの管轄エリアは、【共用タイプ（6室）×35フラット】と【個室タイプ（8～22室）×47フロア】の合計82フロア（502室）であり、これらを35名のRAで担当した。

次に「2.班活動」であるが、これはISDAKの組織運営に関する業務で、RAはそれぞれの資質及び得意分野に基づき、班決定を行う。決定のプロセスは、3月のRA業務引き継ぎ研修の中で、新任RAに対し各班のリーダーが活動内容・繁忙期などを説明した後、面接研修班班員が面談を行い配属先の決定をする。班活動はその活動期間から短期系班と通年系班の2つに分類され、RAはそれぞれ短期系1つ、通年系1つの計2つの班に所属することになる。これまでは班業務を含む全てのRA活動の意思決定はRA会議に集約されており、毎月のRA会議で膨大な審議事項による過度な時間拘束を招いていた。しかし2012年度から業務整理を行い、班活動に関する事柄については班内及び関連班同士で確認・決定し、RA会議では班の活動報告を行うことになった。また、各班には必ず前年度に業務経験のあるRAをリーダーとして置き、新任RAへの確実な引き継ぎを可能にした。本体制での運用は2016年で4年目を迎え、班の役割がこれまで以上に明確化し活動の質が高まったと共に、班ごとの活動ノウハウを蓄積することが容易となったことが成果として表れている。

「3. ISDAK イベント」（原則毎月開催）においては、イベント班とMusic Party班を中心に必ずひと月のイベントを開催し、地域及び外部団体とのイベントの協賛や寮生発案のイベント企画選定・実施補助を行う。ISDAKイベントのうち、地域交流団体(KIFA)と行うもちつき大会（1月）、商店街ツアー（5月）は恒例行事として固定化されつつある中、クリスマスイルミネーション観賞ツアーやD棟RA主催のヨガイベントなど新たな企画も行われた。特にヨガイベントでは参加者から次年度も継続して開催してほしいとの声が多く寄せられた。2016年度のRA活動は表2の通りである。

表2 2016年度のRA活動業務

RAの業務		業務名	主な活動内容
①フロア活動		担当フロアにおける寮生サポート	担当するフロアの寮生サポート 連絡伝達・フロア予算とりまとめ
②短期系班活動		春ウェルカムパーティー	入寮者歓迎イベント企画・実施
		春ガイダンス	新入寮者向けガイダンス企画・実施
		春受け入れ	新入寮者受入業務
		夏フェアウェルパーティー	退寮者送り出しイベント企画・実施
		秋ウェルカムパーティー	入寮者歓迎イベント企画・実施
		秋ガイダンス	入寮者向けガイダンス企画・実施
		秋受け入れ	新入寮者受入業務
		冬フェアウェルパーティー	退寮者送り出しイベント企画・実施
③通年系班活動		D棟班	夫婦家族者サポート
		会計班	予算案・決算書作成、会計報告とりまとめ
		CA班	CAマネジメント、連絡調整、会議とりまとめ
		広報班	HP管理、問合せ対応、RA活動報告書調整、地域交流団体との連絡調整
		面接研修班	RACA面接官の調整、引き継ぎ合宿とりまとめ
		Music Party班	毎月の音楽イベントの企画・実施
		環境・備品班	外部との連絡窓口及びISDAK備品の管理 月1回の共用部清掃チェック・報告
		イベント班	月1回の寮内交流イベントの企画・運営
④月次活動	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新入居者ガイダンス ・ウェルカムパーティー ・小平ツアー ・予算承認会 ・Music Party 	地域及び外部団体との協賛イベント及び寮生発案イベントの企画選定・実施補助
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・KIFA商店街ツアー 	
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・Music Party ・RA/CA募集説明会 ・上野・アメ横ツアー 	
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・RA/CA採用面接1次・2次 ・ヨガイベント ・Music Party ・Farewell Party 	
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・RA相模湖合宿 	
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・新入居者ガイダンス ・ウェルカムパーティー ・防災訓練 ・小平ツアー ・ハロウィンパーティー ・ヨガイベント 	
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・コダリンピック(スポーツイベント) ・ヨガイベント 	

5. 各種プロジェクト

12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ OPEN DORM ・ RA/CA 募集説明会 ・ クリスマスイルミネーション観賞ツアー ・ ヨガイイベント 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ KIFA×ISDAK 餅つき大会 & 着付け ・ RA/CA 採用面接 1次・2次 ・ ヨガイイベント ・ Movie Marathon ・ Study Room ・ Farewell Party 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ RA/CA 感謝状授与式 ・ ISDAK ロゴマーク決定 ・ Music Party 	

国際学生宿舎は前述の通り【共用タイプ（6室）×35フロア】を擁しており、共用タイプのフロアには担当 RA に加え、居住者としてコミュニティ・アシスタント（CA）が入り、共用フロア固有のトラブルや、外部からは発見が遅れがちな諸問題に対し、いち早く把握し対応できるよう体制を整えている。2016年度は CA23名と、CA 班 RA5名が寮生支援を行った。

1-3. 国立国際交流会館の寮運営支援

2016年度は、5名の学生がレジデント・アシスタント（以下 RA）として居住し、留学生の異文化環境での生活のためのサポートや会館居住者間の交流促進に努めた。具体的には、指導主事（留学生相談室教員 1名）と会館職員 2名の指導と協力のもと、RAは各フロアを担当し、日常的に会館に居住する留学生の生活サポートを行い、月例のフロア・ミーティングでは話し合いや交流の場を設けると共に、必要な情報の提供を行った。また夏学期と冬学期の初めに新入居者ガイダンスを実施し、年 7回の交流イベント（内 2回は国立市民団体との共催）を企画・実施した（表 3）。これに加え、4・8・12月を除く各月に 1回、映画鑑賞会を実施した。また、国際交流会館では留学生が地域社会と交流し、日本での社会生活の充実を図ることの重要性を認識し、国立市民また国立市の国際交流団体との協力・連携に努めている。1階にある CC ホールを国立市民と共同による各種イベントのために開放するほか、2017年度はまほうのランプとグローバルファミリーin 国立（地域の家族と留学生の家族の交流促進イベント）、国立国際交流会と餅つき大会を実施した。

表3. 2016年度の実施イベント一覧

月	イベント
4月	新入居者オリエンテーション・ウェルカムパーティー・あすなる総会
5月	防災センター見学・バーベキュー
7月	グローバルファミリーin 国立（国立市民ボランティア団体・まほうのランプとの共催）
9月	RA トレーニング 新入居者オリエンテーション・ウェルカムパーティー・あすなる総会
10月	国際交流会館創立25周年記念パーティー
11月	防災訓練
12月	餅つき大会（国立市民ボランティア団体・国立国際交流会との共催） クリスマスパーティー RA 募集説明会・採用
3月	RA トレーニング

2016年度の国際交流会館の運営・実施体制については、RAの入れ替えが1名のみで、かつRA経験のある学生を雇用したため、RAスキルの向上と提供するオリエンテーションやイベントの質の向上に力を入れることができた。年1度のRAトレーニングは、例年新人RAの教育機会となっていたが、今年度は新人RAの採用がなかったため、各RAのリーダーシップとRAチームとしての組織力の向上を目指したトレーニングを実施した。イベントの実施体制においては、昨年度からイベントに参加する居住者は増加傾向にあり、今年度は参加者数がさらに増えたが、居住者が準備や後片付けを積極的に協力する姿が見られるようになり、居住者の協力を得てイベントを実施する体制が整いつつある。

2017年度の運営体制はRA1名を増員し、6名体制となる。これまで訪問研究者を対象としていた1階が2016年冬学期から留学生用に変更となったため、1階にフロアリーダーとしてRAの配置が必要となった。2017年度からは、統括リーダーのRA1名、A棟各階（1～4階）フロアリーダーのRA4名、B棟リーダーのRA1名、合計6名となる。既存のRAの2名が卒業で退任するため、3月末から新たに3名のRAを雇用した。

1-4 学生宿舎スタッフ（RA・CA）の採用支援

RA・CA制度の抱える慢性的な問題として、卒業に伴う人員確保の課題があげられる。特に秋冬学期は3月卒業・退寮に備え、翌年度開始までに20名以上の新学生寮スタッフを採用する必要がある。このため、12月ごろから説明会開催、オープンホーム開催、リクルーティング、出願課題、選考方法など、募集から広報に至るまで様々な採用業務を大学とRAが協力して推進している。幸いにも冬学期のRA・CAの補充は採用基準を大幅に下げることなく質が保たれているが、応募者が不足気味の状況である。

一方で、春夏学期に行う学生寮スタッフ採用は派遣留学制度帰国者からの応募数が伸び

5. 各種プロジェクト

るが、採用できる枠数は任期途中で抜けた RA・CA の穴埋め程度しかないため「買い手市場」気味となる。そこで春夏学期と秋冬学期の採用需給を平準化する施策として、春夏学期の面接で高水準に達していると認められた学生に対しては翌年秋冬学期に行う採用 1 次面接を免除し、室の高い応募者を次年度へと確保することができた。

近年、国際学生寮スタッフとして活躍していた学生が派遣留学生として海外に飛び立つ傾向が増えてきている。同時に、学生寮スタッフのポジションは派遣留学から帰国した学生が力を発揮する場としても注目を集めている（表 4）。スタッフ採用においては派遣留学中のため面接に直接参加できない学生に対し、Skype 面接を行うなど柔軟に対応することで派遣留学で得た経験を役立てたいという学生のニーズに応えている。今後も派遣留学準備生・帰国生との連携強化により、質の高い学生寮スタッフの確保を図りたい。

表 4. 派遣留学制度と国際学生宿舎学生スタッフ採用の関連性

年度	RA 新規採用数		CA 新規採用数	うち派遣 留学経験者	派遣留学による 学生スタッフ退寮
	小平	国立	小平		
2014	13	4	12	(4)	3
2015	10	4	19	(8)	4
2016	21	1	14	(7)	8

(阿部 仁、渡部 由紀、五嶋 春奈)